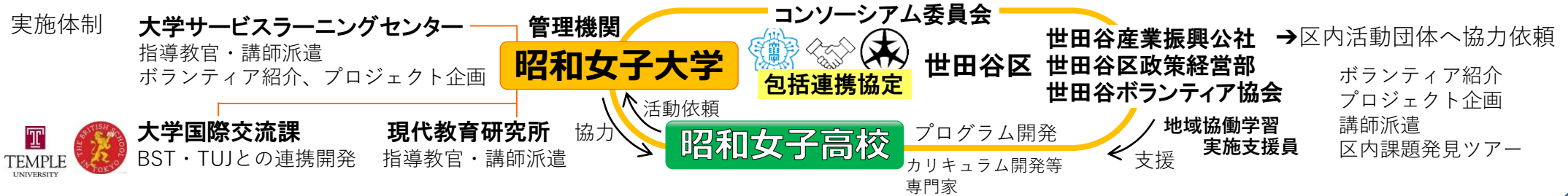


都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム

背景 ○都市型社会問題

本校が位置する世田谷区は、高齢化、外国人増加、都市型災害対策などの**都市型社会問題**に対して、「地域・住民が主体となる街づくり」、「区民がいきいきと活動・交流する場づくり」を掲げて対策を進めており、保健福祉や教育など様々な領域と連携した施策や**地域住民の区政等への参加**が求められている。



令和3年度の目標

- ①コンソーシアムを活用した生徒への活動支援、連携事業、ならびに高大連携の促進を図る。
- ②地域課題への関心を高め、地域社会と積極的に関わろうとする人材を育成する。
- ③探究プログラムの体系的な構築と他教科との横断的な関連性を高め、論理的な思考力など21世紀型能力・資質の育成を図る。
- ④グローバルプログラムとローカルプログラムのクロス化により探究活動の質の高度化を図る。

取組状況

- ・コンソーシアム連携委員会を通じて、グループの個々の活動に応じた地域協働学習支援員を設置。
- ・昭和女子大学主催の高校生向けプログラムを企画・実施。また大学の専門機関を高等部生徒の活動のため活用した。
- ・生徒が地域への関心を高め、地域の現状を把握して活動にすすめるよう、高1前期に「地域探究」を実施。地域への理解を高められるようにした。
- ・高校3年での活動がスタートし、探究の学びをキャリア形成に活かす教材開発を進め、中高6年間のカリキュラムモデルを構築した。
- ・高校1年では各教科担当による横断的な授業開発を実施し、データ分析など探究スキルの育成をはかった。
- ・LABO2のジェンダーかるた頒布やLABO4のフェアトレード実践など、グローバルプログラムでの課題解決の実践活動を地域で考案・実施した。グローバルな活動は感染症対策のため停滞しているが、地域での活動にシフトし、学びを深めている。

成果と課題

- ・コーディネーター・管理機関を軸にコンソーシアムの役割分担を明確化し、地域協働学習実施支援員をグループテーマごとに依頼することで、専門的な支援や地域での活動開拓や人材の掘り起こしを進めることができた。本格的な活動前に「地域を知る活動」を設定して、生徒の地域意識を醸成することで、ローカルへの志向性を高めることができた。他高校や大学・外部団体との連携、特に区内の団体との連携数は飛躍的に増加し、課題研究の実践や助言、評価等に多数の外部人材が参画するようになった。
- ・「世の光となれるグローバル人材」、「主体的に課題の解決に向かう責任感と意欲あふれる人材」の育成をめざした段階的なプログラムを構築した結果、他者との協働、責任感、ローカル・グローバルへの視座、キャリアデザイン力等の指標では3年間で伸長が見られた。LABO2のジェンダーかるたなど地域での活動が継続的に行われている。
- ・高1前期に世田谷区を知る調査研究基礎、高3で活動から得た学びを振り返りキャリアデザインを構築する進路探究を配置し、地域の課題への理解促進を進めた、地域課題の自分事化によって、自分の将来につなげていく流れができ、3年間を無駄なく用いた系統的な探究プログラムを構築することができた。スキル・行動目標による評価指標を設け、本校の育成した生徒像を総合的・体系的に育成する評価体制を構築した。